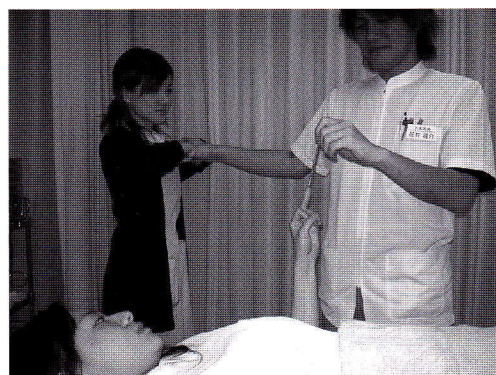


治療の実際

①カラーの選択

患者さんの悪いところに合わせて、必要なカラーを選び出します。患者さんの指や頭部に探索棒（カラーの封入した金属棒）をあてて、パワーテストという手技で選び出します。

パワーテストは通常、先生や助手の指が開くか閉じるかによって、患者さんにとって必要か不必要なものか選択する方法です。（詳細は別記）

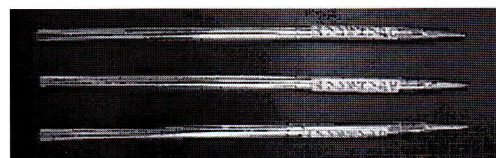


パワーテストの実際

②カラーの貼付

選び出された、カラーを病気の部分に貼ることにより痛みや病気を治療します。病気の部分に、直接貼付する場合もありますが、足や手、耳などの病気を癒すツボや臓器代表領域に貼付する場合があります。

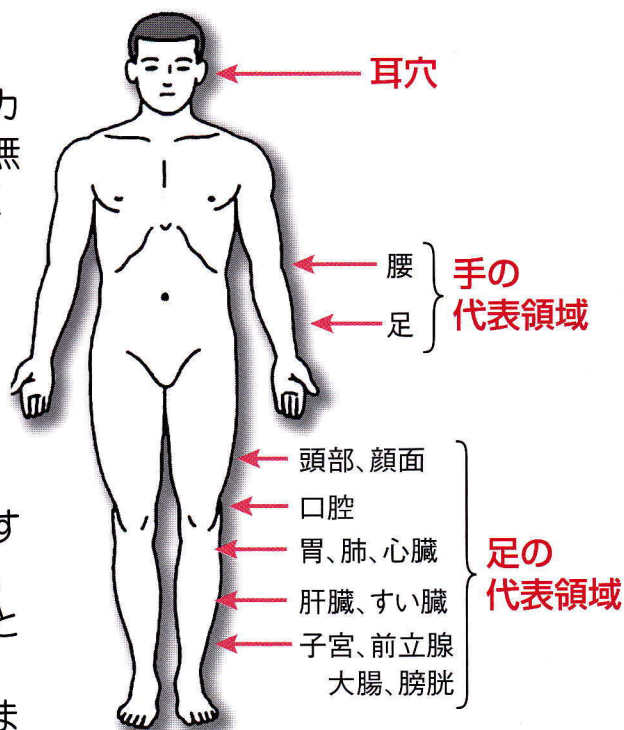
どのような貼り方が有効かは、病気の状態や病気の種類によって異なります。



カラーの入った探索棒で患者さんの悪いところや、病気に必要なカラーを見つけます。

③臓器代表領域とは？

胃や肝臓などの体のあらゆる臓器はカラダの手や足、耳など一見全く関係が無いようなところに、これらの臓器と強く関連する部位があり、これらの部位を治療することにより胃や肝臓の病気が癒されます。これらの場所を臓器代表領域と呼びます。



カラー貼付場所

④カラーの効果はいつまで続くの？

年齢や季節、肌の状態にも寄りますが、通常1週間～10日と考えられます。その期間を過ぎますと効果が減弱するとともに、肌のトラブルになりますので、剥がして清潔にさせていただくことが望まれます。

肌の状態が不良ですと、次回のカラ治療の効果が弱まる可能性があります。

●適用疾患

現在、カラー治療に用いられるカラーの数は、神経や血管、細胞のカラー、膝や腰の痛みのカラー、胃や肝臓、腎臓などの臓器のカラー、リウマチや肺炎などの各病気のカラーなど、4000種類以上の病気別のカラーがあります。これらのカラーを組み合わせ、また耳や足、各病巣部に貼ることで治療していきます。ほとんどの疾患に対応したカラーが準備されています。また不足の部分に関しては日々、随時研究開発されております。詳細は病院、治療院へお問い合わせください。

●●●●●●● パワーテストとは? ●●●●●●●

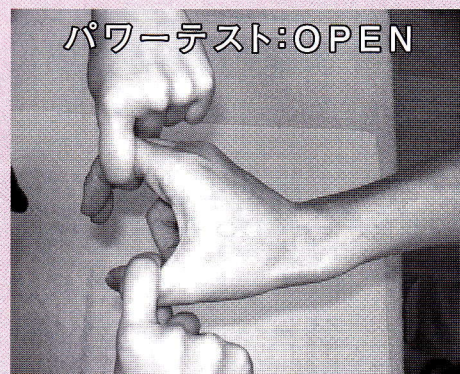
全ての生き物は、自分にとって有害なモノか有益なモノかを判断する能力を本能的に持っています。小さな単細胞生物でも、遺伝子レベルで生活環境が変わるとその場から逃れようとします。生体が原始的に保持するこのような忌避行動、忌避反射を利用した方法で、薬や食物などの適正を判断する方法です。

パワーテストは、カラダの筋肉の減弱、増強を知ることにより判断するため、パワーテストとよばれています。判定に使用される筋肉は、主に手の親指と人差し指をリング状にして判断する方法が一般的ですが、頸の胸鎖乳突筋やその他の末梢の筋肉を利用する方法もあります。

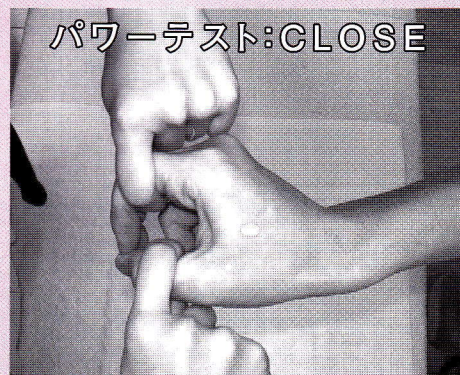
ここでは、一般的なパワーテストである、手の指を使用したパワーテストについて説明します。通常は検者と助手の2人でおこないます。助手が片方の手で親指と人差し指でリングを作って、もう片方の手で検体を持ち、その検体の効果（有効？無効？）を指の開き具合で判定します。

検者は助手のリングを作った指を両手の指で広げることによりリングが閉じたまま（CLOSE）であれば、筋力が減弱せず、助手の持ったものは有益な可能性を示し。リングが開けば（OPEN）、筋力が減弱したことになります。有害な可能性を示します。

このパワーテストを利用して患者さんの治療に必要なカラーの選択やカラーの貼付場所を決めていきます。



パワーテスト:OPEN



パワーテスト:CLOSE

大 木 医 院

〒171-0022

東京都豊島区南池袋2-19-4 大木ビル 3階

TEL:03-5391-7886 FAX:03-3985-1726